

年間指導計画例

目標 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

学期	題材	目標と学習内容	学習指導要領との対照												内容の取扱い	評価の観点 【知・技】知識・技能 【思】思考・判断・表現 【態】主体的に学習に取り組む態度			
			A 表現						B 鑑賞										
			(1) 歌唱			(2) 器楽			A 表現			B 鑑賞							
			ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	(3) 創作			(1) 鑑賞							
(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)					
一学期 (4～7月)	みんなで歌おう	【目標】 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解を深め、歌唱に対する意識をもち、発声の基本や視唱(読譜)の力を育みながら、楽曲に合った歌唱法の工夫をする。 【学習内容】 ・呼吸や口の形など発声の基本を学習する。 ・歌うことの楽しさを感じる。 ・楽譜を見て歌う力(視唱・読譜)を養う。	○	○	○	○	○	○							(1) (2) (4) (5) (10) (11)	【知・技】 ・曲想と歌詞との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉(歌詞)の発音などの技能を身につけている。 【思】 旋律や声の音色を理解して、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。 【態】 曲にふさわしい発声に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。			
	日本の歌	【目標】 日本語の美しさを感じ取り、発音に注意をしながら、歌詞の内容や曲想を理解し、楽曲にふさわしい表現の工夫をして歌う。 【学習内容】 ・日本語(歌詞)の発音(鼻濁音、子音など)に注意して歌う。 ・歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。	○	○	○	○	○							(1) (2) (4) (5)	【知・技】 ・曲想と歌詞や楽曲の背景との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉(歌詞)の発音などの技能を身につけている。 【思】 旋律と楽曲の美しさとの関わりについて考え、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。 【態】 楽曲の美しさに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。				
	日本の心	【目標】 長唄の特徴を理解し、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くとともに、我が国の伝統的な音楽に親しむ心情を養う。 【学習内容】 ・長唄の特徴と文化的・歴史的背景について理解する。 ・歌舞伎について学習する。 ・西洋音楽との共通点や違いについて考える。 ・三味線の基本的な奏法を学習する。						○	○	○	○			○	○	○	○	(6) (9)	【知・技】 長唄の特徴と文化的・歴史的背景について理解している。 【思】 音色やテクスチャを知覚し、それらの動きを感受しながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【態】 日本の伝統的な音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。
	ヨーロッパの歌 (イタリア)	【目標】 イタリア語の発音の特徴をとらえて、リズム・旋律・ハーモニーの関わりを理解し、歌う。 【学習内容】 ・イタリア語の発音の特徴を理解する。 ・楽曲にあるリズム・旋律・ハーモニーの関わりを理解する。 ・歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。	○	○	○	○	○							(1) (2) (4) (5)	【知・技】 ・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉の特徴をとらえた発音などの技能を身につけている。 【思】 旋律や言葉(歌詞)と楽曲の美しさとの関わりについて考え、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。 【態】 イタリア古典歌曲に関心をもち、楽曲の雰囲気をもって、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。				
二学期 (9～12月)	ヨーロッパの歌 (ドイツ)	【目標】 ドイツ語の発音の特徴(子音、ウムラウトなど)、言葉のリズムと旋律との関わりを理解し、表現の工夫をして歌う。 【学習内容】 ・ドイツ語の発音の特徴を理解する。 ・ドイツ語の言葉(歌詞)のリズムと旋律の関わりを理解する。 ・歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。	○	○	○	○	○							(1) (2) (4) (5)	【知・技】 ・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、言葉(歌詞)の特徴をとらえ、楽曲に応じた発音などの技能を身につけている。 【思】 言葉(歌詞)のリズムと旋律の関連を知覚し、それらの動きを感受しながら、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。 【態】 ドイツ歌曲に関心をもち、それぞれの楽曲の雰囲気をもって、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。				
	オペラ&ミュージカル	【目標】 舞台作品としてのオペラやミュージカル(映画)の物語の内容、それぞれの楽曲を歌う登場人物の心情、曲想と歌詞の関わりを理解して、表現の工夫をして歌う。 【学習内容】 ・それぞれの作品を鑑賞し、物語の内容、登場人物の心情を理解する。 ・リズムと旋律の関わりを理解し、互いに歌い、曲想や歌詞の内容を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。	○	○	○	○	○							(1) (2) (4) (5) (8) (9)	【知・技】 ・それぞれの作品の楽曲の特徴や作品の時代背景(文化)、舞台作品としての表現方法を理解している。 ・それぞれの楽曲についてふさわしい発声を身につけている。 【思】 リズムと旋律の関係を知覚して、それらの動きを感受し、音楽の美しさや特徴をとらえて、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。 【態】 物語や登場人物、それぞれの楽曲に関心をもち、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の活動に取り組もうとしている。				

学期	題材	目標と学習内容	学習指導要領との対照						学習指導要領との対照						評価の観点 【知・技】知識・技能 【思】思考・判断・表現 【態】主体的に学習に取り組む態度		
			A 表現						A 表現			B 鑑賞				内容の取扱い	
			(1) 歌唱			(2) 器楽			(3) 創作			(1) 鑑賞					
			ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ			
			(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)			
一学期(9~12月)	器楽・創作(ピアノ)	【目標】 鍵盤楽器(ピアノ、キーボード)に興味をもち、音階や和音(コード)の学習から、和音進行(コード進行)から旋律をつくる活動、音階から旋律をつくる活動に進み、自ら鍵盤楽器で弾いて表現の工夫をする。 【学習内容】 ・楽典の初歩として音階と和音(キーボードコード表)を鍵盤楽器を併用して学習する。 ・単旋律教材(ぐるぐるピアノ)から鍵盤楽器に親しみをもち弾くことへの興味をもたせる。 ・片手4重奏(ラ・クンパルシータ)から4人でのアンサンブルで鍵盤楽器での合奏を楽しむ。 ・鍵盤楽器に慣れた後、コード表から簡単な和音(コード)を弾けるようにする。														(1) (2) (3) (4) (5) (7)	【知・技】 音階(音の並び)や和音(音の重なり)を弾いたときの響きや、音型の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身につけている。 【思】 音色やリズム、旋律、和音の関係を知覚し、それらの動きを感じ、特徴をとらえて、どのように音楽を作り出し、自ら表現するかについて表現意図をもっている。 【態】 鍵盤楽器の演奏や、独奏やアンサンブルの演奏をするに関心をもち、主体的・協働的に創作活動や器楽の活動に取り組もうとしている。
	世界の心	【目標】 アジア地域の様々な音楽の特徴を理解し、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くとともに、諸外国の音楽に親しむ心情を養う。 【学習内容】 ・ガムランなどアジア地域の音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解する。 ・それぞれの音楽の共通点や違いについて考える。 ・社会にとっての音楽の意味や価値について考える。													(9) (10)	【知・技】 アジア地域の様々な音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解している。 【思】 音色やリズム、テクスチャを知覚し、それらの動きを感じながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【態】 アジア地域の様々な音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。	
二学期(1~3月)	器楽(ヴァイオリン)	【目標】 ヴァイオリンの奏法を身につけ、楽曲の曲想やヴァイオリンの音色に親しみをもち、表現の工夫をして演奏する。 【学習内容】 ・ヴァイオリンの基本的な奏法(ポウイングや運指など)、演奏表現に必要な技術を学習する。 ・それぞれの楽曲の演奏を行い、楽曲の曲想とヴァイオリンの音色を作り出す奏法の関係を理解する。 ・楽曲のイメージをもって、演奏表現の工夫をする。													(2) (4) (5)	【知・技】 曲想とヴァイオリンの基本的な奏法との関わりについて理解している。 ・楽曲にふさわしい奏法、相手との音の調和を意識して演奏する技能を身につけている。 【思】 音色や和音の響きを知覚し、それらの動きを感じながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【態】 ヴァイオリンの独奏やアンサンブルの演奏をするに関心をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。	
	器楽(ギター)	【目標】 ギターに興味をもち、音階や和音(コード、ダイアグラム)の学習から、自ら弾いて表現の工夫をする。 【学習内容】 ・楽典の初歩として音階と簡単なコード、ダイアグラムを学習する。 ・単旋律教材と器楽アンサンブルに親しみをもち、ギターを弾くことに興味をもつ。 ・コード表から(ダイアグラムを使用せずに)簡単な和音(コード)を弾けるようにする。													(2) (4) (5)	【知・技】 曲想とギターの基本的な奏法との関わりについて理解している。 ・楽曲にふさわしい奏法などの技能を身につけている。 【思】 音色やコードの響きを感じ取りながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【態】 ギターの独奏やアンサンブルの演奏をするに関心をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。	
	歌唱・創作(ヴォイス・アンサンブル)	【目標】 それぞれの奏者の演奏する役割をもって、互いにリズムや声の響きを感じ取りながら、ヴォイス・アンサンブルを楽しみ、表現の工夫をする。 【学習内容】 ・楽譜から正確なリズムを読み取り(読譜)、声を発して表現をする。 ・それぞれの役割(パートごとのリズム、言葉など)を果たし、互いに聴き合いながら、リズムの関係や声の響きの調和を作り出す。 ・楽曲の曲想について、互いに共通の意識をもって、音楽を作り出すようにする。													(2) (4)	【知・技】 曲想と楽曲の構造(声で表現するリズムアンサンブル)との関わりについて理解している。 ・楽曲にふさわしい発声などの技能を身につけている。 【思】 互いに声の響きを感じ取りながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【態】 声でのアンサンブルの演奏をするに関心をもち、主体的・協働的にリズムの創作活動や自らの声での演奏活動に取り組もうとしている。	